

平成 18 年度一般会計歳出予算性質別集計表

(単位：千円、減額)

科目	本年度決算額	前年度決算額	比較増減	対前年度比(%)
人件費	619,069	699,745	80,676	11.53
物件費	223,012	284,265	61,253	21.55
維持補修費	13,005	21,606	8,601	39.81
扶助費	138,267	136,124	2,143	1.57
補助費	656,109	656,661	552	0.08
普通建設事業費	185,758	245,628	59,870	24.37
災害復旧事業費	33,946	54,497	20,551	37.71
公債費	760,978	717,947	43,031	5.99
積立金	693	553	140	25.31
貸付金	44,707	43,218	1,489	3.45
繰出金	368,760	383,286	14,526	3.79
計	3,044,304	3,243,530	199,226	6.14

一般会計決算歳出

今年度の実質公債費比率は
県内で最も高い30・2パーセント

今年9月、今年度の県内市町村の実質公債費比率が公表され、日野町は30・2パーセント(昨年度に比べ7・8パーセント上昇)と県内で最も高い数値となりました。

実質公債費比率が25パーセントを越えると、一部の起債に規制がかかります。

実質公債費比率とは

標準財政規模(税収入額等に普通交付税を加えた額)に対する自治体の借金である起債の返済額の割合のこと。

起債の返済額には、水道と下水道等公営企業分や一部事務組合の負担金のうち、起債の返済額にあたるものも含まれます。

この比率は平成18年度から新しく導入された指標です。

特別会計決算

独自に運営される
6つの特別会計

一般会計とは別に、まちは6つの特別会計があり、それぞれ独立して運営されています。

国民健康保険特別会計では、歳入総額約4億3800万円に対し歳出総額約4億3769万円となりました。

75歳以上の高齢者に医療給付を行う老人保健特別会計では、歳入総額、歳出総額ともに約7億2999万円となりました。

要介護認定者への給付などを行う介護保険特別会計では、歳入総額約5億3932万円、歳出総額が約5億2522万円となっています。

また、水道施設管理などを行う簡易水道特別会計では、歳入総額、歳出総額ともに約1億4503万円となりました。

公共下水道事業特別会計で

は、歳入総額、歳出総額ともに約1億3840万円となりました。

排水処理施設の維持管理などの農業集落排水事業特別会計では、歳入総額、歳出総額ともに約6049万円となりました。

健全な運営のため
一般会計から多額の繰出金

特別会計の決算状況を見ると、いずれの会計も歳入・歳出ともに同額または黒字となっていますが、実際は一般会計から合計約3億4532万円を繰出して収支のバランスをとっています。この多額の繰出金が一般会計を圧迫する大きな原因となっています。

特に、借金をして施設整備などを行った簡易水道特別会計、公共下水道事業特別会計、農業集落排水事業特別会計では、平成18年度末で合計約29億円の借金残高があり、その

平成18年度会計別決算の状況

(単位：千円)

会 計 名		歳入決算	歳出決算	歳入歳出差引額
特 別 会 計	国民健康保険	437,994	437,691	303
	老人保健	729,993	729,993	0
	介護保険	539,324	525,215	14,109
	簡易水道	145,034	145,034	0
	公共下水道事業	138,399	138,399	0
	農業集落排水事業	60,490	60,490	0

返済に繰出金が多く使われています。

このように、一般会計と特別会計には密接な関わりがあります。まちは、現在行っている下水道料金の値上げや加入促進をはじめ、未収金の

徴収など、財源の確保に務めています。また、医療費などの給付費である国民健康保険、老人保健、介護保険については、介護予防・健康づくりなど、医療費自体を抑える取り組みを行っています。

まちづくり説明会を開きます

現在の財政状況や、今後のまちづくりなどについて
町民の皆さんに説明する「まちづくり説明会」を開きます。

黒坂会場（町公民館） 日時：11月6日（火）午後7時～

根雨会場（山村開発センター） 日時：11月9日（金）午後7時～

問合せ 役場総務企画課（電話 72 0331）